



URBAN PLAN PRESS

働き場改革

WORKS・事例紹介

AZA / ALH

DPT / NOVITAS

PICK UP

UP Letter / OFFICE×ONE IDEA

URBAN PLAN OFFICE

Vo.002 TAKE FREE

AZA TOKYO ITABASHI



COMPANY NAME : 株式会社エージーエコーポレーション
ADDRESS : 東京都板橋区新河岸 1-15-5
PROJECT : 移転
HP : <https://www.aza.co.jp>

倉庫を改装したオフィスが市民権を得てから、どのくらい経つだろう。プリミティブな内装に高い天井の大空間がクリエイティビティを刺激するのだろうか。シリコンバレーに本社を置く企業の多くが、倉庫やガレージで創業した。そんなイメージもあってか、倉庫に対して、あるいは倉庫をオフィスとしている企業に対する印象は、かなり好転したのではないだろうか。

映像・音響機器のレンタル事業を行うエージーエコーポレーション（東京都板橋区）もまた、倉庫をオフィスとして活用してきた。とはいえその理由は多分に実務的なもの。レンタル用機材を整備・保管するスペースが必要なので、これまでは既存の倉庫を改装してオフィスとしていた。2019年1月に開設された新オフィスは4階建て約9,400㎡の新築倉庫を一棟借り、その最上階部分をオフィスとしている。入ってまず目につくのは、広い倉庫空間に点在する建物のような立方体構造。そのひとつひとつが、ミーティングスペースやリフレッシュスペース、ブックコーナーなどとなっている。それぞれの機能は個々の構造として独立性を保ちながらも、全体としてはつながりを感じさせる配

置。5カ所に設けられたミーティングルームもすべてデザインテイストが異なるのだが、通路を歩いても破綻は感じない。掲げられたサインもシンプルながら、それぞれの部屋に個性を与えつつ統一感を持たせる動きをしているようだ。倉庫ならではの主張しないプリミティブな内装も、一役買っているのかもしれない。

同社の従業員は100名ほど。メンテナンスや梱包・発送、電話対応などのほかは、営業や機器の設置などで外出する従業員も多い。すべての従業員にとって気持ちよく働ける場になりたいと、とくに充実させたのが多目的スペース。建物内に数か所ある多目的スペースは、カウンターを設けたカフェ、ひな壇のあるシアター、囲まれ感のあるイートイン、喫煙所を併設したドリンクコーナーなど、すべて雰囲気を変えた。休憩や昼食はもちろん、PCを持ち込んで仕事に打ち込んだり、ちょっとしたミーティングをしたり。そんな自由に使えるスペースが、最上階フロアの半分ほどを占める。

新オフィスに移転して約5ヶ月。多目的スペースの存在は、社内の雰囲気にも変化をもたらしつつある。映像・音響機器メーカーの展示会や社内の全体ミーティングなどに加え、今年はOBを招待した新年会も開いた。終業後も、従業員同士で寛ぎながら談笑する姿が見られるようになった。来訪客はまずこの多目的スペースを話題にし、就職希望者の採用もスムーズに決まるようになった。4階に設けたドリンクコーナーは、そのまま一杯やりたという声も

聞かれるほど居心地がいいという。

社内の雰囲気が変わりスペースがさまざまな使われ方をされるなか、はやくも5カ所のミーティングルームは足りなくなってきている。社員が増えたわけでもないし、ミーティングを増やしたわけでもない。従業員がスペースを活用して自主的に集まり、「楽しそうに何かをたくらんでいる」ようだという。

そんな従業員たちの姿を笑顔で見つめる、同社社長の金子みどり氏。「何より働きやすい空間に仕上がったんです。次は執務スペースとレストルームに手を入れて、その後は一杯飲めるスペースをつくってもいいかも」と楽しそうに語る。オフィスはそこで働く人のもの。そんな意識が行き届いたオフィスは、躍動的だ。そこが倉庫空間であっても。



左から：飯野氏・金子社長・棚田氏

ALH TOKYO MEGURO



COMPANY NAME : ALH 株式会社

ADDRESS : 東京都目黒区目黒 1-24-12

オリックス目黒ビル 5F (受付) /8F

PROJECT : 増床

HP : <https://www.alhinc.jp>

システム開発から通信インフラ構築、業務改善コンサルまで IT を軸としたさまざまなサービスを提供する ALH (東京都目黒区)。そのオフィスは、AS LEADING HARMONIZER という社名の由来どおり、さまざまな機能や意匠の調和によって成り立っている。

執務室とは別の階に独立して設けられている、同社のレセプション。内部が見えるガラス張りのエントランスを一步入ると、約 230 ㎡の大空間が広がる。正面にはキッチンとボックス席からなるカフェのようなダイニングスペース。左手には大きなテーブルをはさんで階段状のベンチ。その脇にはイスとテーブル、さらに奥まった土足禁止のカーペットスペースにはさまざまなジャンルの本やクッションが置かれ、リラクゼーションの場を提供している。広い空間のところどころでは、同社のスタッフがミーティングをしたり作業に没頭したり。仕事という定められたタスクを、思い思いのカチでこなしていく。ホワイトの壁とブラックの天井をバックに、ファニチャー類は彩度を抑えたナチュラルな色合いでまとめられている。自由気ままな使い方ができる空間だが、その意匠や機能には無駄も不足

も感じられない。やりたいことができるということは、足りないものが無いということでもある。

このスペースを創り上げたのは、社内から選出された 7 人の若手社員。通称「ゆずらん 007 (セブン)」。カンファレンススペースを新設するにあたり、社風を表現しつつこれまでにない空間をつくらうという呼びかけに応じた。「所属も職種もバラバラな 7 人が会社への熱い想いで集まり、とにかく面白い空間をつくった」。メンバーはその結果を「通常業務のかたわら好き勝手にやったので」と笑う。結果として楽しい空間が出来上がり「クライアント先に常駐している社員が、直帰せずに本社に戻ってくるようになった」、「ここで女子会をやったけど、すごく盛り上がった」、「リクルーティングの反応がすごい。こんなところで働きたいと目を輝かせる」など、成果は枚挙にいとまがない。そして、みんなで考えている間は最高に楽しかったという感想には、全員一致でうなずく。

7 人が力を注いだのは、カンファレンススペースだけではない。この広い空間を通り過ぎた先にある会議室こそ、彼らの「好き勝手」がもっとも発揮された部分かもしれない。約 20 回の会議室は完全個室で、すべての部屋が異なるテイストの意匠となっているのである。壁・床・天井はもちろん照明からファニチャー、小物に至るまで厳選。ひとつとして同じ部屋はない。室内を構成する要素すべてに細部までこだわり、それぞれのテイストを高い感度で表現することに成功している。この会議室群には、「アリア」や「バラ-

ド」、「コンチェルト」など、すべての部屋に音楽の種類から採られた名前がアルファベット順につけられている。実はそれぞれの部屋のテイストも、曲調に合わせたもの。さらに大型の会議室 3 室は劇場のような落ち着いた意匠で、その名も世界 3 大劇場から採った「オペラ」、「スカラ」、「コロソ」をつけた。

会議スペースやカンファレンススペースは執務室と違い、価値を生む部分ではないとされることも少なくない。ALH のカンファレンススペースは、ロビーであり、ラウンジであり、ワークスペースであり、会議室である。用途を問わない、何にでも使えるスペースである。使いたい人が使いたいように使えることで、場の価値を見出すスペースといってい。ここは「ハーモナイズ」というコンセプトが具現化された、まさしく多目的のスペースである。



「ゆずらん 007」の皆さん

DPT TOKYO SHINAGAWA



COMPANY NAME：ディーピーティー株式会社

ADDRESS：東京都品川区大崎 2-11-1
大崎ウイズタワー 24F

PROJECT：移転

HP：http://www.dpt-inc.co.jp

オフィスは企業の顔という言葉があるとおり、オフィスを見ればその企業の社風や考え方、理念といったものが浮かび上がってくる。オフィスとは企業の思いが形作るものだとすることをあらためて感じさせる言葉だ。一方で、オフィスが企業の社風をつくる場合もあるようだ。

エンジニアの派遣や工場系の仕事紹介サイト運営などを展開するDPT（東京都品川区）。関東地区の拡大発展を念頭に入れた東京オフィスの移転が決定したところから、新オフィス構築プロジェクトははじまった。名古屋市内に本社をもつ同社がこれまでオフィス構築を依頼していたのは、家具メーカー。新オフィス構築にあたり同じメーカーに施工を打診した。その出来に不満はなかったものの、これまでとは違う新しいDPTを具現化できるものではなかったという。2018年3月に開設された新東京オフィスは大崎駅にほど近い高層ビルの最上階。物件探しにあたって立地や建物のスペックにはこだわらなかったというが、東京の街並を背景とした執務スペースは、望もうとしても望めるロケーションではない。

DPTが望んだ、従来とは異なる方向性のオフィス。それ

は単純な執務効率や仕事のしやすさだけではない。今までにないオフィス。社員の意識を変えるオフィス。DPTの可能性を広げるオフィスなど、その目指すものを表現する言葉は少なくない。

東京オフィスの内装はベースカラーを落ち着いた色合いでまとめ、光沢のあるストーンや金属をアクセントとしてあしらう。落ち着いたはいるものの重々しさはなく、余分なものを省いて洗練さを演出した。レイアウトもスタンダードなもので目新しさはないが、それがかえって室内の落ち着いた雰囲気を増している。とはいえそればかりではない。閉塞感がありデッドスペースになるかと思われた小部屋がリフレッシュルームへと生まれ変わったのが、このオフィスにおいては代えがたい遊び心となっている。

内装材はもちろんファブリックやファニチャーなどすべてにおいて質感を追求し、特にクオリティにこだわった会議室にはレプリカは用いていない。こうしたオフィスづくりのスタンスは、東京オフィスのコンセプトのひとつでもある「社員に『本物』になってほしい」という言葉に集約されているといっていだろう。

本物へのこだわりには、社員から不安の声が上がったこともある。家賃は以前の数倍、造作コストもかさんだ。赤字覚悟の移転・新オフィス構築だったが、結果として東京オフィスが生む利益は増えたという。「利益増はオフィスだけが理由ではありませんが、来客の心象は確実に良くなりました。こうしたロケーションにこうしたオフィスを構

えていることが、結果的に当社の信用力につながっていると感じます。この点に関しては、まさにオフィスの力と言っていいでしょう」とは、東京支社長の福田吉晴氏。

こんなオフィスで働きたいという入社希望者も増え、リクルーティングにも手ごたえを感じるようになった。めったに顔を出さなかった他社出向のエンジニアたちが、作業やミーティングのために会社に来るようになった。なにより、社員たちの雰囲気が変わった。

「大企業のオフィスが多いという立地のせいもあるかもしれませんが、それでもオフィス内での彼らの立ち居振る舞いがスマートになったというか、変わったのは事実です」（福田氏）。人がオフィスをつくるばかりではない。時にオフィスが人をつくることもある。オフィスのもつ力のそんな一側面が、垣間見える。



福田東京支社長

NOVITAS

KANAGAWA
YOKOHAMA



COMPANY NAME：株式会社ノビタス

ADDRESS：神奈川県横浜市港北区新横浜 3-17-5
いちご新横浜ビル7階

PROJECT：移転

HP：<https://novitas.co.jp>

オフィスと言えば、デスクとチェアが規則正しく整然と並ぶもの。そんなイメージを抱く人もいるかもしれない。デスクの並び方を見れば、セクションもヒエラルキーもわかる。そんなオフィスが当たり前だったころは、確かにデスクは規則正しく並んでいた。

ノビタス（横浜市港北区）の主業は、映像機器や無線通信機器と、そのシステムの開発。主な納入先は、各地の官公庁だ。官公庁のオフィスは、依然としてデスクが整然と並ぶスタイルが主流。2018年に移転・新設された同社のオフィスも、前述のようなデスクが整然と並ぶ伝統的なものを想像してしまう。

その想像はしかし、単なる先入観に過ぎないのかもしれない。一步オフィスに足を踏み入れた途端に感じる、自由な雰囲気。官公庁という言葉から思い浮かぶ硬さはまったく感じられない。デスクはというと、一見不規則に連結されたブーメラン型に並んでいる。その間を縫うように行き来する従業員たちからも、歩きづらさは感じられない。このデスクの配置。無造作に置かれているようで、計算されている。セクションごとのまとまりはもちろん、従業員

同士の視線や歩く際の動線にも配慮されている。そして声が室内全体に届く、適度な密集感。この配置は、実は同社が独自に編んできたもの。「オフィスは働く人のため」という理念に基づき、創業以来培ってきたのだという。

少人数で創業した同社。このデスクの配置は、従業員同士のコミュニケーションを活発にするためにあえてランダムにしたのがはじまりという。どこで誰がどんな仕事をしているのかが見える。すぐに話しかけられる。従業員全員に告知したいことがあれば、声が届く。さらに、自分のデスクにいたままで全体ミーティングができる。社内の風通しという言葉をよく聞くと、一体感を持たせるうえでこうした配置は有効だろう。

一体感という点でいえば、会議スペースもそのひとつ。従業員全員が集まるために設けたというこのスペース。執務スペースとの間に壁やドアはなく、棚で仕切られただけ。大きなテーブル一つに全従業員がつくというスタイルも、一体感の醸造に一役買いそう。オフィス内にはほかにファミレスのボックス席のようなミーティングスペースも設けられているが、こちらも仕切りはない。ここでも従業員同士の一体感や風通しを意識したことが感じられる。しかもこの会議スペースやミーティングスペースへは、執務スペースの中を通る。来訪客との打ち合わせなどにも使われるスペースだが、あえてそうしたのだという。働いているところを見せる、日ごろの仕事ぶりを見せることが、信頼につながるの考えからだ。

デスクの配置と並び、同社が「こだわりのポイント」と位置付けるのが、エントランス。ここはシンプルな意匠で、安定や堅牢を感じさせながらも堅苦しさはない。訪れる人を迎えるための空間は軽快さ、オフィス内は温かみというギャップを演出する。

同社がなによりも目指すのは、顧客への貢献。そのぶれない思いがあるからこそ、官公庁向けという確実性が求められる業務でありながらも、自由度の高いオフィスができてきてくる。働く人のためのオフィスは、安心を生み出すため。そしてそれは、顧客のためでもある。



羽田野代表取締役



新宿本社
マネージャー 石田

総務・人事の皆様！優良な人材を他社に取られていませんか？実は、オフィスデザインで改善できるんです。このフリーペーパーを見てよかったです！と思っていただけの提案をしますよ！アーバンプランとWork upしましょう！

大阪万博開催決定の日に合わせて、当社大阪オフィスがオープンしました。2025年に向けてますます活気付く大阪。オフィススペースも人材も確保が困難になっていくなか、優秀な人材が集まる活気あるオフィスに変えませんか？



名古屋営業所
所長 牧野

おかげさまで本年度よりオフィスを移転いたしました。以前よりも広さ2倍、場所も名古屋駅の目の前と、この上ない「働き方改革」になりました。これを機に、所員一同新たな気持ちでサービス向上に努めてまいります！！自社移転プロジェクトを通じた、「移転の本音」も包み隠さずお伝えできますので、お気軽にお問い合わせください。



大阪営業所
所長 三宅

横浜オフィスは今年3月、拡張・全面リニューアルいたしました！東京からも程近い、みなとみらい地区のそばに位置します。是非お近くへお越しの際はお立ち寄りください。あなたにとっての理想的な働き方、働く空間をプロデュースいたします！



横浜営業所
所長 林田

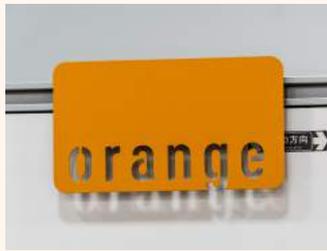


ベトナム設計室
室長 ツオン

CGや図面を作成する、私たちベトナム設計室。お客様へのご提案をより良いものにするため、スタッフには建築学のプロをそろえました。建築の知識はもちろん、CG・図面作成の正確さとスピードは私たちの自慢です。高品質な設計を提供できるように日々勉強し、責任をもって仕事をしています。今後ともご期待ください！

OFFICE × ONE IDEA

アーバンプランでこれまでご提案させて頂いた空間のアクセントとなる様々な造作をご紹介します。空間の中に一つのごこだわりがあることで空間により愛着が生まれます。



引っ掛けサインプレート

可動式のローパーティションで複数の個室をつくっているフリーミーティングエリア。打ち合わせの規模や用途に合わせてサイズやレイアウトが変化するため、各個室のサインプレートはパーティションに容易に取付・取り外しが可能な引っ掛けられるものをご提案しました。レイアウトが変更になっても、このプレートで個室名を表示できるのでとても便利です。



会議室使用表示サイン

会議室の使用状況が一目でわかるものがほしいとのご要望をいただきました。当初は各会議室の前にランプを設置させるなどの案が上がりましたが、一目で全室の確認ができた方がわかりやすいということで、入口付近の壁面にLEDランプを仕込んだ表示サインをご提案しました。



アートウォール

当社のご提案はクロスの張替えのみ。施工後にお客様が自身で装飾されました。サイズの異なるフォトプレートを設置し、アクセントのある壁面が生まれました。私たちはオフィス空間のトータルプロデュースを行っていますが、お客様ご自身でこだわりを持って工夫されることで、より愛着のある空間になりますね。



座面下収納

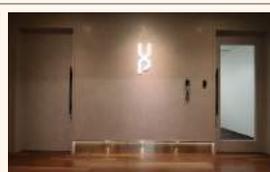
ベンチの造作にあわせてご提案することの多い、座面下収納。座面の下に、普段はあまり使用することがない防災用具などが収納できます。複数のベンチを設置する際はすべての形状を変えたり、+αの機能を加えたり。2つ3つと機能を組み合わせることができるのも、醍醐味だと感じています。



URBAN PLAN OFFICE



東京本社
東京都新宿区西新宿 1-25-1
新宿センタービル 34F
TEL 03-5909-0515
FAX 03-5909-0516



大阪営業所
大阪府大阪市淀川区中島 5-5-15
新大阪セントラルタワー南館 6F
TEL 06-6306-6456
FAX 06-6306-6457



名古屋営業所
愛知県名古屋市中村区名駅 4-5-28
桜通豊田ビル 5F
TEL 052-589-9981
FAX 052-589-9982



横浜営業所
神奈川県横浜市中区本町 6-52
本町アンバービル 8F
TEL 045-226-3566
FAX 045-226-3567



ベトナム設計室
289 Nui Thanh St. Hai Chau
Dist. Da Nang City, Viet Nam

